

人生で大切なことは十人十色と言われる。しかし、聖書の教えは、真理があるのですから真理に基づいた価値観を持ちましょう、ということだ。パウロがもっている信念や基準は、**神様を愛すること、人々を愛すること、正しい福音を広げる**、という三つのことだ。パウロの人間関係の築き方はその時によって変わるが、彼が人間関係を大切にしていることや、人々を愛することは変わらない。パウロの人間関係構築の二つの方法が見られる。前半は、個人的な相談をしてから、他のエルサレムの信徒たち全員に伝えたことだ。パウロの柔軟で温厚な姿勢や、人間関係づくりの腕前が表わされている。しかし、11 節から、パウロの態度は 180 度変わる。エルサレム教会のリーダーを非難したり、面と向かって抗議するなど、強い行動に出た。

**一. 自分の自由を制限する人間関係の作り方** パウロは 14 年の間に、2 回エルサレムに行った。今回は、パウロ自身の異邦人に対する伝道の働きについて、エルサレム教会と話し合ったことだ。パウロがエルサレム教会のリーダーたちと個人的に会う機会があった。1:16-17 をみると、パウロが、誰かと相談してから異邦人に福音を伝えよう、ということではなく、すべてイエス様の啓示からだと言っているのだ。では、なぜ今更、わざわざ、エルサレムに上って、異邦人に対する伝道の働きを認めてもらうための話し合いに臨んだのだろうか？なぜ個人的な相談をしてから、他のエルサレムの信徒たち全員に伝えたのだろうか？それは、自由なやり方から、不自由な制限や報告になってしまうのではないか。パウロが注目しているのは、失礼にならないようにということでもないし、平和が失われてしまわないようにということでもない。パウロが大切にしているのは、教会がひとつになるということであり、教会内で愛し合うということなのだ。パウロは、誤解がないようにエルサレム教会に受け入れられ、認められることを望んだ。パウロが示しているのは、キリストにあり、自分を制限することを選択する自由だ。「やらない」ということを、他の大切にしたい物事のために、また他の大切な価値がある信念を貫くために、選択するのだ。パウロは根回しをしていたようだ。まず個人的に相談し、そのあとに、エルサレム教会全体との対話。パウロの目的は自分の利益を得ることではない。パウロの目的は神様が教えてくださっている、互いに愛し合うということを大切にしているのだ。パウロはエルサレムに上らなくても、自由に、異邦人の間で福音を伝えられたはずだ。エルサレムの教会のリーダーとの相談という行動は、なにか自由じゃない感じがするかもしれない。しかし、パウロは異邦人信徒のためにそれをした。第一コリント 9:19-23。パウロが言っている自由とは、自分を制限することを選択する自由だ。パウロは、福音のために、自分の好き嫌いに関係なく、多くの人が福音の恵みを受けられるように、自分のやり方を調整した。調整しなければならないのではない、調整することによって、よい結果を期待することができるのだ。神様を愛するために、人々を愛するために、正しい福音を広げるために、調整しようではないか。

**二. 愛をもって真理を語る人間関係の腕前** 2章の後半で、パウロの態度が 180 度変わった。パウロの態度は硬く厳しくなった。2:11 の非難することや、面と向かって抗議することなどは、強い行動だ。なぜかというと、ペテロの偽りの行動が気になったからだ。それは、福音の真理に向かってまっすぐに歩んでいないことだ。ペテロはその時エルサレム教会の重要なリーダーだったので、彼の行動が強い影響を与えるのではないかとパウロは感じていた。ペテロは最初、その割礼派の人々が来る前には異邦人と一緒に食事をしてしたが、割礼派の人々が現れてからは、異邦人から身を引き、離れて行ったことだ。パウロが抗議しているのは、本音と建前が見られることについてだ。異邦人を受け入れたいのか、受け入れたくないのか、割礼派の人々の前での態度と、パウロたちの前での態度のどちらがペテロの本当の気持ちなのか、つまりそのどちらかは偽りの態度だということだ。パウロの厳しく堅い言い方は失礼だと思うか？それとも、福音の真理から離れてしまわないようにするためには、人間関係を気にする必要はないと思うか？パウロの行動は人間関係を無視しているわけではなく、かえって人間関係を大切にしているのだ。人間関係を大切にすることは甘いことばかりではない。エペソ 4:15-16、「むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において、かしらであるキリストに向かって成長するのです。キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つながり合わされ、それぞれの部分はその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることとなります。」パウロは、愛をもって真理を語るという教えを実現した。愛をもって真理を語ると、組み合わされることやつながり合わされることができ、キリストのからだであり、教会の全体は成長する。

箴言 10:10-12 を思い出した。「目で合図する者は人に痛みをもたらし、無駄口をたたく愚か者は滅びに落ちる。正しい人の口はいのちの泉。悪しき者の口は不法を隠す。憎しみは争いを引き起こし、愛はすべての背きをおおう。」ここから、三つの人間関係についての教えを頂く。

1) 本心と誠実をもって、他の人と接する。もし、コミュニケーションを、目で合図することだけで済まそうとするならば、意地が悪いのではないか、心が正しくないのではないか、など周りの人々を不安にさせてしまう。積極的な面から言うと、本心と誠実を持ち続けることは、他の人とコミュニケーションをとる時の基本的な態度だ。人と人のコミュニケーションが疑いの中心になってしまうのは、罪のせいだ。家族の関係、友人の関係、同僚の関係の中で、互いに疑ってしまうことは、現代社会が崩壊する原因の一つと言われる。本心と誠実が満たされる人間関係を目指しましょう。無駄口をたたくというのは、不要なことをまくしたてたり、むだにしゃべることなどをののしって言う表現だ。私たちの口から出る言葉は、私たちの心を表す。マタイ 12:33-37、「木を良いとし、その実も良いとするか、木を悪いとし、その実も悪いとするか、どちらかです。」人間関係のコミュニケーションは口先だけでなんとかなるものではない。人間関係はただよいやり方を練習すれば作れるというものでもない。外面的なことだけをいくら変えたとしても、大切なのは心だ。イエス様の約束は、私たちの心を造り変える。イエス様を心に迎えると、心が変わりはじめる。愛をもって真理を語るができる。

2) 周りの人を育てよう、他の人の成長を助けよう。不法を隠すということは、本当の愛ではない、真理でもない。愛をもって真理を語るというのは、愛と真理の両方が必要だ。イエス様は愛であり、イエス様は真理である。第二テモテ 3:16「聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。」教えと戒めと矯正と義の訓練は厳しく感じさせられるかもしれない。しかし、愛をもって親が子どもを教えたり、矯正したりすることは、美しいことだ。「正しい人の口はいのちの泉」:正しい人は義を守る人であり、心の中には憐れみと愛が満たされている。口はいのちの泉、つまり、他の人々の祝福になる、周りの人を育てたり、他の人の進歩や成長を助けたりすることだ。また、潤っているということだ。乾燥しているところへ湿り気を与えることや、暑い時に冷たい水を飲ませることに似ている。互いに育て合ったり、霊的な成長を助け合ったりすることを目指そう。

3) 思いやりの心を持って、他の人の心を汲み、他の人の気持ちを理解する。誰かに憎しみを持っていると、その人のすべての行為は良くないこととして目に入ることになる。憎しみのせいで、先入観や偏見を持ち、相手に対する憎しみを持って、争いを引き起こしやすくなる。「愛はすべての背きをおおう」の背きは、悪くて不正でよくないこと示している。「おおう」というのは、上にかぶせる、良くないことの上に愛をかぶせるということだ。誰かが悪いことをした時、その善悪の判断をするに至らないということではない。良くないことの上に愛をかぶせているので、ただの責めることなく、相手を助けたい、理解したいという気持ちも含まれているのだ。「おおう」のもう一つ意味は、赦すということだ。イエス様は私たちの弱さと不完全であることを受け入れ、私たちの罪を赦される。私たちも思いやりの心を持って、他の人の心を汲み、他の人の気持ちを理解しよう。ただイエス・キリストを信じることによって義と認められることは福音の核心だ。行為ではない。信仰だ。信仰を持って、パウロが大切にしていること、神様を愛するという、人々を愛するという、正しい福音を広げること、を求めよう。